

平成28年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

注 意 事 項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

図Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳは、平成22年内閣府政策統括官の「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)報告書」から抜粋し、一部修正したものである。本調査では、全国15歳以上39歳以下の者(5000名)を対象に、調査員による訪問留置・訪問回収を行い、ひきこもりに関する調査データを集計した。有効回答者は3287名であった。各グラフに記載されている「ひきこもり群(59名)」とは、仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6ヶ月以上続けて自宅にひきこもっている状態の人々を指す。また、「一般群(3092名)」とは、ひきこもりではなく、ひきこもりに対する親和性が低い状態の人々を指す。なお、残りの136名については考慮せず、あとの問いに答えなさい。

問1 図Ⅰと図Ⅱは、ひきこもり群と一般群の小中学校時代の学校と家庭での経験割合を示したものである。この2つの図から読みとれるひきこもり群の特徴を述べた上で、ひきこもりを予防するためには、どのような取り組みが必要であると考えられるか、1000字以上、1200字以内で述べなさい。

問2 図Ⅲは、ひきこもり群に対して、「現在の状態をどの機関なら相談したいか」を問い、その回答結果を示したものである。そして、図Ⅳは、ひきこもり群と一般群の「不安要素についてあてはまること」を問い、回答結果を示したものである。この2つの図を踏まえて、ひきこもり者を相談機関に繋ぐとしたら、どのような点に配慮する必要があると考えられるか考察し、800字以上、1000字以内で述べなさい。

※図表出典

(「若者の意識に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)報告書」(平成22年)内閣府政策統括官、2009年7月)

非公開

図Ⅰ 小中学校時代の学校での経験

非公開

図Ⅱ 小中学校時代の家庭での経験

非公開

図Ⅲ 現在の状態をどの機関なら相談したいか

非公開

図Ⅳ 不安要素についてあてはまること

平成28年度入学試験問題（後期日程）

小 論 文

教育学部 生涯教育課程 心理臨床科学コース

出題の意図

ひきこもりの問題は、個々人の諸要因のみならず、生活環境や地域等の心理社会的要因が複雑に関連している。そのため、ひきこもり問題の特徴やその背景要因を踏まえて、その解決策について考えることは、本コースのアドミッションポリシーである「心理臨床という営みについて科学的にアプローチし、心の癒やしに関わる多様な専門的技術を身につけるために意欲を持った人材」を評価するために適切な問題であると判断し、出題する。

本コースでは、グラフなどの客観的なデータに基づいて、問題の本質を見極め、有効な解決策を導き出せるような能力を重視している。今回の問題では、問1では、ひきこもりの背景要因（ひきこもり群と一般群の小中学校での体験の特徴）を踏まえて、その予防策を問うことで、客観的な洞察力と論理性を評価する。また、問2では、ひきこもりの問題を解決するための方法論として専門機関との連携に焦点をあて、データを踏まえた上で、どのような配慮が必要であるかについて問うことで、推察力と独創的な思考力を評価する。